

しんぱん
新版

しどうようもんしゅう
指導要文集

だいいっしょう

第一章

しんじん

信心の基本

きほん

みようほう

妙法を持った人の位

たも

ひと

くらい

どうしん

ひとびと

み聞

よろこ

たま

しょうぞう

道心あらん人々は、これを見ききて悦ばせ給え。正像

にせんねん

だいおう

ごせ

思

ひとびと

まつぼう

いま

たみ

二千年の大王よりも、後世をおもわん人々は末法の今の民

しん

か

てんだいざす

にてこそあるべけれ。これを信ぜざらんや。彼の天台座主

なんみようほうれんげきよう

とな

らいにん

よりも、南無妙法蓮華經と唱うる癩人とはなるべし。

せんじしよう

(009 撰時抄

みようほう

たも

ひと

くらい

妙法を持った人の位 166 ページ 12 行)

ぶつどう

もと

ひと

みき

よろこ

しょうぞう

仏道を求める人びとはこのことを見聞きして喜びなさい。正像

にせんねん

だいおう

う

こうせい

じようぶつ

ねが

ひと

まつぼう

二千年の大王と生まれるよりも、後世の成仏を願う人は、末法の

げんざい

ひと

そくしんじようぶつ

きかい

あた

現在の人びとのほうが、即身成仏の機会を与えられているので

しん

す。どうして、これを信じられないでいられましょうか。あの

てんだいしゅう　ぎす

ぶつぽう　さいこうけんいしや

もの

まつぽう

天台宗の座主として、仏法の最高権威者であつた者よりも、末法

なんみようほうれんげきよう　とな　らいびようにん

において南無妙法蓮華經を唱える癩病人となりたいものです。

と なんじ でし いちぶん げな ひとくち

問う。汝が弟子、一分の解無くして、ただ一口

なんみようほうれんげきよう とな

くらい

南無妙法蓮華經と称うるものは、その位いかん。

こた

ひと

しみさんぎよう

ごくうい

にぜん

答う。この人は、ただ四味三教の極位ならびに爾前の

えんにん ちようか

しんごんとう

しよしゆう

円人に超過するのみにあらず、はたまた真言等の諸宗の

がんそ い ごん おん ぞう せん ま どうとう しようしゆつ

元祖、畏・儼・恩・蔵・宣・摩・導等に勝出すること

ひやくせんまんおくばい

百千万億倍なり。

こ

こくちゆう

しよにん

わ

まっていとう

かる

請う、国中の諸人、我が末弟等を軽んずることなか

すす

かこ

たず

はちじゆうまんおくこうくよう

だいぼさつ

れ。進んで過去を尋ねれば、八十万億劫供養せし大菩薩

きれんいちごう

もの

しりぞ

みらい

ろん

なり。あに熙連一恒の者にあらずや。退いて未来を論ず

はちじゅうねん

ふせ

ちようか

ごじゅう

くどく

そな

れば、八十年の布施に超過して五十の功德を備うべし。

てんし

むつき

まと

だいいゆう

はじ

しょう

天子の襁褓に纏われ、大竜の始めて生ずるがごとし。

べつじよ

べつじよ

蔑如することなかれ、蔑如することなかれ。

ししんごほんしょう

(012 四信五品抄

みようほう

たも

ひと

くらい

妙法を持った人の位 270 ページ 1 行)

と

にちれんだいしょうにん

でし

ぶつぼう

たい

問う、あなた（日蓮大聖人のこと）の弟子で、仏法に対する

りかい

なんみようほうれんげきよう

とな

ひと

くらい

理解もなくただ南無妙法蓮華經と唱える人の位はどのようなも

こた

ごほんぞんじゆじ

ひと

にぜん

しよきよう

しみ

のですか。答う、この御本尊受持した人は、爾前の諸經である四味

さんぎよう

さいこう

くらい

ひと

にぜんきよう

えんぎよう

ぎよう

ひと

三教の最高の位の人と爾前經のなかの円教を行ずる人より

しんごんしゅうとう　しよしゅう　がんそ

もすぐれているだけでなく、また真言宗等の諸宗の元祖、つまり

ぜんむい　ちごん　じおん　きちぞう　どうせん　だるま　ぜんどう　くらい

善無畏、智儼、慈恩、吉蔵、道宣、達磨、善導たちの位よりも

ひやくせんまんおくばい　ねが　にほん　くに

百千万億倍もすぐれているのです。そこで願うことは、日本の国

ひと　わたし　まってい　かろ　かれ

の人びとが私の末弟を軽んじてはならないということです。彼ら

かこ　はちじゅうまんおくこう　なが　あいだ　ほとけ　くよう　だいぼさつ

は過去において八十万億劫という長い間、仏を供養した大菩薩

おそ　ねはんぎよう　と　きれんいちこう　もの　ちゅう　かわ　すな

です。恐らく涅槃経に説かれる熙連一恒の者（中インドの川の砂

かず　おお　ほとけ　しゆぎよう　ゆえ　いま　きよう　しん

の数ほど多くの仏のもとで修行した故に、今この経を信ずるこ

ひと　かれ　くだ　みらい

とができた人のこと）でしょう。また彼らは下つて未来には、

はちじゅうねん　あいだふせぎよう　もの　まさ　ごじゅう　くどく

八十年の間布施行をしてきた者にも勝る五十のもろもろの功德

そな

を備えるでありましょう。ちようど生まれただかりの天皇の子が産衣

う

てんのう

こ

うぶぎ

う

だいいりゆう

につつまれたようなものであり、また生まれたての大竜のようなも

のなのです。ゆえにけっしてさげすむようなことがあつてはなりません。

ん。

されば、持たもたるる法ほうだに第一だいいちならば、持たもつ人随ひとしたがつて第一だいいち
なるべし

(030 持妙法華問答抄

じみようほっけもんどうしょう

妙妙法みょうみょうほうを持たもつた人ひとの位くらい
516 ページー5 行)

しょうぞうにせんねん

こくおう

だいじん

まつぼう

ひにん

そんき

「正像二千年の国王・大臣よりも、末法の非人は尊貴な

しやく

こころ

り」と釈するも、この意なり。

とうたいぎしょう

(038 当体義抄

みようほう

たも

ひと

くらい

妙法を持った人の位

616 ページ 9 行

詮せんずるところ、仏意ぶつ いのごとくんば、經きようの勝劣しょうれつを詮せんとする
にあらほけきようず、法華經ぎようじやの行者は一切いつさいの諸人しよにんに勝れたるすぐの由よしこ
れを説とく。

（152 大田殿許御書

おおたどのものとごしよ

妙法みようほうを持った人ひとの位くらい

1366 ページ 7 行

ほけきよう たも ひと おとこ でんぷ そうら

法華經を持つ人は、男ならば、いかなる田夫にても候

さんがい しゆ だいぼんてんのう しやくだいかんいん しだいてんのう

え、三界の主たる大梵天王・釈提桓因・四大天王・

てんりんじようおうないしかんど にほん こくしゆとう すぐ

転輪聖王乃至漢土・日本の国主等にも勝れたり。いかに

にほんこく だいじん くぎよう げんぺい さむらい ひやくしようとう

いわんや、日本国の大臣・公卿・源平の侍・百姓等に

すぐ もう およ によにん きようしかによ

勝れたること、申すに及ばず。女人ならば、橋戸迦女・

きちじようてんによ かん りふじん ようき ひとつ むりようむへん いっさい

吉祥天女・漢の李夫人・楊貴妃等の無量無辺の一切の

によにん すぐ と そうろう

女人に勝れたりと説かれて候。

まつのどのごししようそく いっこう こと

(373 松野殿御消息 (二劫の事))

みようほう たも ひと くらい

妙法を持った人の位

1982 ページ15行)